

令和元年度 学校評価総括表

奈良県立高等養護学校

教育目標		生命と絆を大切にすることを育む（思いやりの心・いたわりの心と行動力を育む）				総合評価
運営方針		共生社会の中で、個々の社会自立を目指し、主体的な行動力、集団生活に適應できる力を育て、互いに助け合い、自己研磨する力の育成を図る。				
前年度の成果と課題		本年度の重点目標				A
○分教室の設置、インクルーシブ教育の推進の取り組みについて一定の評価を得られている一方で、本校と分教室での行事の重なり等について、教育課程とも照らし合わせながら整理をする必要がある。 ○教育課程の内容の見直しを図る。		・職業教育の充実を目指し、専門教科の学習内容を検討・整理し、学習指導計画を策定する。				
		・インクルーシブ教育の推進を目指し、分教室における交流および共同学習のあり方の検討を行う。				
		・卒業後の就職を目指して、社会参加体験や職場実習のさらなる充実を図る。				
		・社会自立を目指して、基本的な生活態度の育成を図り、社会的マナーを身につけさせる。				
		・開かれた学校を目指し、情報発信の方法を検討し、実践する。				
教育活動等	評価項目	具体的方策・評価指針等	評価	成果と課題（評価の分析）	課題の改善策等	学校関係者評価
インクルーシブ教育の推進	・新教育課程(専門コース)について評価、見直しを図る。 ・分教室における行事等の交流及び共同学習について評価、精選を図る。	・総合検討委員会を中心にコース制の内容、在り方について振り返りを行い今後の方向性についてまとめ、県教育委員会主催の検討協議会において総括を行う。 ・関係者にアンケート調査等を実施する。 ・教育課程委員会において専門コースの内容の見直し、検討を行う。	B B	引き続き総合検討委員会において本校としての方向性について協議を行うとともに保護者を含めた関係者へのアンケート調査を実施。結果も踏まえながら、自己評価を行った。コースの選択については、入学してから見学、体験してから選択することも大切であるが、希望どおりに行かなかった場合に負担が大きいこと、登校場所に見通しが持てないことなどからコース別の選抜が望ましいと考えた。 また、交流及び共同学習については、各分教室ともにそれぞれの特徴を生かした交流ができていた。ただし、行事等の精選は必要と思われる。また、本校2年生、3年生についても高田高校、分教室設置校との交流についても引き続き実施し、充実を図る。 ・教育環境整備については高校とも引き続き協議を重ねる。とりわけ特別教室の使用については、物理的に難しい部分もあることから、高校とも連携して県教育委員会へも協力を要請していく必要がある。 これらのことを踏まえ、県教委主催の高等養護学分教室評価会議が2回にわたり開催し、各評価項目毎に協議を行い、評価会議のとして一定の方向性が出された。今後はこの方向性を元に県教育委員会の支援・協力も得ながら取組を進められるように努める。 教育課程の見直しについても引き続き検討を進めていく。	・2年生からのコース選択に実施については、希望ができる限り優先して選択できるよう柔軟に取り組めるように検討を行う。例えば、コースの設置クラス、学級編成の在り方について幅を持たせるなど。 ・交流及び共同学習については、設置校と実施できる教科の検討、行事への取り組み方、幅広い交流の仕方について改善を図っていくなどが考えられる。 ・教育環境整備については、設置校とも連携・協力を図りながら改善に努めるとともに県教育委員会への支援、協力も行っていく。 ・教育課程の見直しについては、より充実が図れるように引き続き検討を行っていく。	・コース選択については、本人の適性を伸ばすということであれば希望通りにできるように保証すべきである。コースの定員についても柔軟に設定することが望ましい。 ・行事の精選について昨年度と比較してどのように改善されたか今年度は十分なことができなかったため、次年度、行事等精選委員会を設置して具体的に検討を行う。 ・物理的な環境整備の課題は現場では負担が大きい。 ・交流及び共同学習が、各校でオリジナルな内容で行われていることは評価ができる。
学習指導	今後の本校・分教室の将来像を見据えながら、各コース専門教科の学習内容を中心に、教育課程全体の見直しを行う。	学習指導計画やその評価などを元にして、教育課程委員会を中心に協議を行っていく。	B B	生徒増に伴い、進路実習等を前倒しにしたが、進路に関する指導時間の確保が難しい。 令和4年度からの新学習指導要領実施に向けて各教科の学習内容・評価等の検討。(総合的な探究の時間、特別の教科 道徳については先行実施)	進路学習(指導)に関する内容について、教科を越えて連携できるように整理と見直しを行う	・生徒が伸び伸びと目標を持って学習できることが大切。 ・生徒増と指導時間の確保(効率化)とのバランスが重要。

教育活動等	評価項目	具体的方策・評価指針等	評価	成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
進路指導	就労、福祉、生活等の関係機関と連携し、進路保障の取り組みを充実させる。	進路指導の手引きに『障害者雇用に関わる最近の動きと現状』『各種書類』などを盛り込んで完成させる。また、「サービス等利用計画」を作成していただける事業所の情報収集を行う。	B	「進路指導の手引き」は、各取り組み等については見直しの整理ができた。支援制度・各種様式の見直しをしているため完成できていない。今年度中には構成できる。 「進路ニュース」は各学期1回、特別号1回の発行ができた。	「進路指導の手引き」の活用が行えるように検証し完成させる。 就労継続支援B型利用について、学校からの意見書やアセスメントシートを完成させるとともに、福祉サービスを利用するための「サービス等利用計画」を作成していただける事業所の情報収集が今後も必要である。	・卒業までに学校の他に支えになってくれる就労支援や相談事業の事業所等とのつながりが構築できれば良い。
	幅広く職場開拓を行い、職場実習先を確保していく。勤労観・職業観を育成して、『卒業後の自己実現』が達成できるようにさせる。	個別体験実習を1年生は1回以上・2年生は2回以上取り組む。また、授業(1年生はトータルワーク、2・3年生はキャリアガイダンス)との連携を行う。	A	3年生について、生徒の実態さまざまであったが、日中活動先の確保は行えた。 【就職率 84.52%】 個別体験実習は、ほぼ計画通り取り組むことができた。[1年3名・2年2名は実施できず] 学年・教科の協力を得ながら、進路学習を学期に1回は実施することができた。	個別体験実習について、事前学習・事後学習を確実に行うことで次回の実習に結びつけられるようにしていく。そのためにも、授業(1年生はトータルワーク、2・3年生はキャリアガイダンス)との連携を行い、勤労観・職業観を意識させる必要がある。	・分教室制になり、時間的な制約がある中で各機関・事業所との連携の積み重ねでこれだけの就職率は評価できる。
生徒指導	情報教育(SNS)に関する指導の充実を図る。	指導計画の策定等の検討組織をワーキンググループから委員会に改編をし、活動の安定と充実を図る。	A	委員会組織に改編し、年間6回の会議が安定して実施された。その結果、全職員が情報教育の必要性を確認すると共に各学年、分教室における指導内容の充実を図ることができた。 今後は、蓄積した実績をもとにシラバス等を作成し、より計画的な指導の実践が必要である。	外部講師の招聘を含めた年間計画の作成をすることで、シラバス作成の基礎をつくる。	・一人一人の生徒を直接的に毎日、目を行き届かせることは難しく、後手になってしまうこともあると思います。生徒自身から身構えず安心して「報告・連絡・相談」(つぶやくこと)のできるライン窓口のようなものがあると良いのではないかと。
	分教室における生徒指導の再確認と充実を図る。	各分教室において、定期的に研修や連絡会を開催し、実態の把握と改善への検討、協議を行う。	B	定期的(年間4回)に生徒指導部長が分教室に出向き、生徒指導連絡調整会議を実施した。分教室生徒の実態把握と指導に関する調整を行い有意義であったが、日々変化する実態に対して、指導が後手に回ってしまうこともあった。 今後、更に分教室と本校との指導格差がないように調整が必要である。	分教室生徒指導部員との情報交換等を積極的に行い、生徒の実態把握と指導に関する調整を行う。	・シラバス作成は効果的な方法であると考えます。
支援活動	小・中・高等学校をはじめ、外部の方々を対象に「発達障害」や「SST」、「構成的グループエンカウンター」「怒りのコントロール」等について講演活動をする。また、小・中・高等学校を訪問して支援活動をする。	市町村教育委員会を通じて案内を配布したり、人権や生徒指導、教育相談など、様々な関係機関で案内する。	A	講演活動は昨年より増え、40件(通算121件)行うことができた。教育機関以外(福祉、一般市民等)に話すことも、県外から依頼もあった。また、小学校、高等学校へ出向いての相談活動が少しずつであるが増えた。本校主催のSST研修会は40名参加していただいた。	公立高校、中学校へのセンター的機能のアピールを強化する。本当に支援で悩んでおられる教員の悩みに答える働きをしていることのアピール不足が考えられる。案内ビラの改良を行う。	・講演活動が、教育関係者以外の方々にも普及されていることは評価できるが、個々の先生方の負担・悩みが大きい課題が気になった。
	各種ニーズに迅速に対応できる情報発信のツールとして、ホームページ全体の更新を行う。	ホームページの基本フレームの更新と情報発信に関する内容の教員ICT研修を行う。	B	「校長室より」、「入試関係について」のページ更新は随時行えたが、ホームページ全体のシステム更新はできなかった。	システム更新について、他の支援学校との情報交換を深める。また、情報係と関連教員の研修の実施。	・ホームページ全体の更新はなぜできなかったのか、検証をしないと目標達成は困難であると考えます。

教育活動等	評価項目	具体的方策・評価指針等	評価	成果と課題(評価の分析)	課題の改善策等	学校関係者評価
健康安全	校内危機管理体制を充実し、防犯意識を高める。	不審者侵入時の「緊急対応マニュアル」に基づき、不審者対応の職員研修を行い、より効果的、実践的なものにする。	A	分教室の生徒も登校していることを想定して訓練を行った。大阪教育大学付属池田小学校の緊迫感のある訓練の様子を視聴し、全職員が刺戟に触れ、警察署員の方から使い方の基礎を学ぶことができた。	「緊急対応マニュアル」を基本としながらも、柔軟に適切な対応ができるような連携力が必要。来年度も不審者対応研修を継続し、防犯意識をさらに、高める。	「安全教育のしおり」は作成されているか。作成して活用している。
	災害時の安全確保に備えるとともに、防災意識を高める。	火災避難訓練、地震避難訓練を実施し、「安全教育のしおり」等を用いた学習により、知識を深める。	B	学期に1度の訓練を計画通り実施することができた。災害を想定し、校内や関係諸機関への連絡・通報等も的確に行うことができた。生徒の避難の姿勢は、一部、緊張感に欠ける場面もあったか、全般的には、速やかに行動できた。	「安全教育のしおり」を用いた学習を継続的に行い、常に安全を意識した行動がとれるように指導する。	・豪雨など気候変化による想定を遙かに超える状況が発生している。今後も継続的に学習を実施してもらいたい。
研究・研修	発達段階に応じたキャリア教育の充実を図るために「改訂版キャリアチェックⅢ」や「改訂版目標シート」を活用し、実践する。	「改訂版キャリアチェックⅢ」から得た情報を折れ線グラフにし、次のステップのキャリアカウンセリングで保護者と連携して活用していく。また、4月に全学級に配布し、生徒自身が実生活を見直したり、自己の就労観を意識し、自己実現できる目標を立てやすくするように「キャリアチェックⅢ」を使う。	B	「改訂版キャリアチェックⅢ」の活用も次年度で3年目を迎える。以前から3年をスパンとして内容や時期の見直しを行う予定である。2年次からのCGでの学習内容との連携や1年次のTWの学習内容との系統的取組に繋がるようにしていきたい。また、記入の際には、○・△・空欄(分からないとき)と改める方向。	「チェックシート」からの情報は担任がデータ入力し、次年度へ引き継げるかたちをとっている。また、生徒自身が学期ごとの目標を立てるときには、実生活を見直す指標になるように生徒の就労観を見据えた改善を行う。	・キャリアチェックによって、得意・苦手が明確にされるので、各生徒の目線が目標を立てやすくなっていることは評価できる。
	本年度は「研究の日1～5」を、各分教室のコースと本校1年専門教科との相互の連携や体系的な内容であるかの検討を行い、3月の研究紀要に実践を記載し研究報告会で発表を行う。	本校・分教室において、「研究の日1～5」を活用して、学びの原点である生徒自身の「何をまなびたいのか」「何をしりたいのか」という具体的なところでの、興味・関心を授業でどのように引き出し広げるか検討する。	A	1年次での基礎的な内容での学習と、教科横断的な視点での2年次からの専門的な学習内容を、組織的に配列できているのかを研究紀要にまとめた。特に、実践で『何ができるようになるか』の実現を目指す。また、アクティブ・ラーニングの視点からの授業の改善につながるよう「研究の日」で取り組んだ。	学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性を意識できる支援をもつ。また、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」の実現ができるように各教科で習得した知識や考え方を活用できる場を設ける。	・生徒自身が客観的にわかり考えを整理して目標を明確にできるようになっていることが良い。より実践に活かせるように見直しもされている。